



Wood Stove Life

里山で送る、薪ストーブのある暮らし。

正面からはあたたかな太陽の日射し、背後は竹林に守られたHさん一家の住まい。屋根の上にはちゃんと飛び出たのは煙突の先端。そう、H邸は立派な薪ストーブのある家、内から外から家族の幸せを守ってくれます。



筑紫野市在住
Hさんの住まい



山を背に南向きに建つH邸。リビングもウッドデッキもとても日当たりがよい。外壁は光熱費採用の塗り壁を採用している

薪ストーブを囲む 里山の冬景色。

緑豊かな天拝山の麓。家のすぐ裏は竹林、という自然あふれるこの地にHさん夫妻が新居を構えたのは2年前のこと。

これで3度目の冬を迎えるH邸には、リビングルームの真ん中であたたかな炎がゆらぐ薪ストーブのぬくもりがあふれている。

「手入れや薪の用意が大変そうなので、最初は反対していたんです」と、奥さま。薪ストーブが欲しいと言ったのはご主人だそうで、実は気乗りしなかったそうだが、実際に冬を過ごしてみると、想像以上のあたたかさに驚いたという。「煙突が2階まで伸びているせいか、家中がぽかぽか。エアコンでは絶対にこんなにすみずみまで熱が行き渡らないと思います。薪をくべるのも楽しくて」と、意外ハマってしまったのは奥さまの方。休みの日にはピザを焼いたり、シチューなど煮込み料理をコトコト仕込んだり。「昔はこうしてお風呂を焚いていたね」と懐かしがっているの



は近くに住む奥さまのお母様。薪ストーブはまさに、H邸の主役として活躍中だ。
室内の主役が薪ストーブなら、外まわりの主役はリビングの外に設けた広いウッドデッキ。あたたかい季節は、ここでのんびり家族で過ごす。夏にはご主人が作った煉瓦のかまどでバーベキューパーティ。空気の美味しいダイニングルームは、里山暮らしならではの、自然のこほろびだ。

自然にみんな薪ストーブの前に集まってくる。夏の間に集めた薪は、外の薪小屋と脇に設けた薪置きスペースに



里山で送る、
薪ストーブのある暮らし。
Wood Stove Life

「子どもたちがのびのびと山で走りまわる姿を見ると、ここを選んで良かったな」と実感します。今まで絶対に触れなかった虫も平気になったりと日々通しさを覚えてくれるのも嬉しい。たまたま、虫だけじゃなくカエルまで家の中に入れていたりして驚かされることもあります。それも里山暮らしならではの楽しみです。」

環境はもちろん、ご主人は住まいそのものにも「田舎暮らし」の趣を求めている。だから家づくりを考え始めた当初は、古民家の購入も検討していたという。

そんな時、たまたま見学に足を運んだのがハウズランド社が構える『風のくら』という古民家を改装したモデルハウス。広い土間に薪ストーブ、素朴な風合いの塗り壁と、高い天井に渡された太い梁は、まさにイメージ通りの住まい。

「新築ならば古い家のように構造面でも不安を抱えることもないし。薪ストーブでピザが焼けますよ」と教えてもらったのもここ。それで主人がすっかり薪ストーブのファンになっちゃって(笑)。



今は1階の一部屋を子供部屋に当てている。ドアを開けておけば、キッチンがのぞけるのでお互いの気配を感じられる。



お気に入りのタイルを敷き詰めたオリジナルの洗面台。鏡はこれから置く予定。



梁は濃いブラウンに塗り、吹き抜けの空間の印象を引き締める。アンティーク風の照明は奥さまが探して取り寄せたこだわりの品。



大型のアイランドキッチンの横に合わせ、ダイニングテーブルは自作した。キッチン奥にはバスルームなどの水回りスペースを設置。

自然の中で
のびのびと暮らす。



裏山には竹林が広がる。栗の木などもあり、夏には昆虫が集まってくるそう。

日々山の緑に触れられるような、のんびりとした自然環境の中で子育てがしたい。それは、もとも田舎暮らしに憧れていたという主人のたつての希望だった。

そんな環境と、共働きで忙しい奥さまが子育てのサポートをお願いできるよう、実家の近所という条件での土地探し。見つかった場所は、まさに念願の静かな里山。休みの日にはのんびり庭の草刈りをしたり、裏山で子どもたちと遊んだり。夜になれば、

ば、満天の星空とともに、心地良い静けさが訪れる山の麓の生活を満喫している。

「子どもたちがのびのびと山で走りまわる姿を見ると、ここを選んで良かったな」と実感します。今まで絶対に触れなかった虫も平気になったりと日々通しさを覚えてくれるのも嬉しい。たまたま、虫だけじゃなくカエルまで家の中に入れていたりして驚かされることもあります。それも里山暮らしならではの楽しみです。」

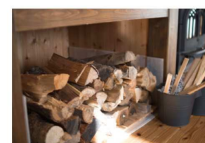


里山で遊ぶ。
薪ストーブのある暮らし。
Wood Stove Life

階段の途中に設けたワークスペース。朝、家族が起きる前に集まるまで、こーして仕事することも多いという



里山からは、猿や猪が出てくることもある。里山ならではの日常だ



薪の用意も、もう手慣れたもの。施工会社から譲り受けることも

我が家で
子どもと過ごす
時間を大切に。



薪ストーブを囲むように、いつも家族が一緒に過ごすリビングルーム。LDK全体は26畳もの広さを確保し、高い吹き抜け天井と相まってまるで平屋建てのようなゆとりとした空間となっている。

「2階とは吹き抜けのおかげでつながっているような感覚。薪ストーブのあたたかさも、子供の声もどこにいても伝わってきます」。

平日は共働きでなかなかゆとりと子どもとの時間が取りづらいう奥さま。まだ小さいうちだから、ちよとした時間でもなるべくお子さんと触れ合いたい、キッチン脇に設けた一室を、今は子供部屋にあて

ている。『部屋のドアを開けて宿題をしていると、ちょうどキッチンで料理をしている姿が見えるし会話もできる。水回りもキッチンの横なので、とにかく動線に無駄がなく、子どもたちといつも一緒に居る感覚』。

本日はLDKを眺めたいという2階に、という案も出たというほど、周囲の景色が美しい里山の四季。清閑の桜や色づく銀杏並木、そして近所さんのお裾分けしてくれる採れたての野菜たち。当たり前のようには巡る季節を、家を囲む里山の自然が教えてくれる。そんな里山暮らしは、これからのんびりゆとり、続いていくだろう。

